



盆踊りの「輪」から広がる「和」。

やりましょう盆踊り

2016年 実施報告書



やりましょう盆踊り実行委員会

■主催／河北新報社営業局 運営事務局／河北アド・センター

盆踊りの「輪」から広がる「和」。

やりましょう盆踊り

盆踊りで輪をつくり、東日本大震災で犠牲になった方の供養と鎮魂、
そして復興へ向けてコミュニティをさらに結びつける事を目的とした「やりましょう盆踊り」プロジェクト。
開催5年目となった今年は「夏まつり仙台すずめ踊り」での盆踊りの開催を皮切りに、
多賀城市高橋地区、石巻市新蛇田地区、岩沼市玉浦西地区、青葉区作並地区での「やりましょう盆踊り」の開催、
「仙台七夕まつり」つなぎ横丁での「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」など、
全8日間に渡り開催してきました。

すずめ踊りでは、地元住民の方々と近隣の企業で働く方々や、
また、過去に盆踊りで支援した被災地の方々を招聘し、一緒に盆踊りの輪をつくり各地の復興状況を発信。
仙台七夕まつりでは、海外の観光客にも参加いただき地元宮城の人々と交流しながら日本文化に触れてもらいました。
各会場には、6月～8月の期間開催した「盆踊り練習会」によって育成した踊り手ボランティア、
唄い手・お囃子ボランティアの皆様にも積極的にご参加いただき、各会場を盛り上げていただきました。

私たちはこの「やりましょう盆踊り」の「輪」から、絆や笑顔の新たな「和」が広がる事を願ってやみません。
ご協賛を頂いた各社様をはじめ、盆踊りの運営にご協力をいただいたすべての皆様に心より御礼を申し上げます。

平成28年9月

やりましょう盆踊り 実行委員会

(主催／河北新報社営業本部、運営事務局／河北アド・センター)



<2016年度の開催日程>

やりましょう盆踊り ⑤ 夏まつり仙台すずめ踊り

開催場所／仙台駅東口 宮城野大通 ⑦7月30日(土) 17時30分～19時30分

やりましょう盆踊り ⑥ 多賀城市高橋

開催場所／多賀城市高橋5丁目20-1 小深町公園 ⑦7月31日(日) 17時30分～20時

やりましょう七夕おどり・盆踊り ⑧ 仙台七夕

開催場所／仙台市青葉区定禅寺通り沿い つなぎ横丁 ⑦8月6日(土)・7日(日)・8日(月) 18時～20時30分

やりましょう盆踊り ⑨ 石巻市新蛇田

開催場所／石巻市蛇田字新立野76番地 市営新立野 第一復興住宅 H棟向かい公園 ⑦8月13日(土) 18時30分～20時30分

やりましょう盆踊り ⑩ 岩沼市玉浦西

開催場所／岩沼市玉浦西2丁目 まごころ公園 ⑦8月14日(日) 17時～20時

やりましょう盆踊り ⑪ 仙台市青葉区作並

開催場所／仙台市青葉区作並北子原6 作並小学校 ⑦8月20日(土) 17時～20時

7/30(土) やりましょう盆踊り

(レポート／実行委員会・金子)

in 夏まつり仙台すずめ踊り

◆開催地／仙台駅東口宮城野通(夏まつり仙台すずめ踊り)
◆開催時間／17時30分～19時30分 ◆来場者数／約500名

仙台駅東口、夏の風物詩「夏まつり仙台すずめ踊り」。 過去開催地からも踊り手を招聘し、各地域の盆踊り曲で東口の夜を彩る。

東口の夏祭りとして開催されている「夏まつり仙台すずめ踊り」。10時30分から祭りがスタートし、20を超えるすずめ踊りの祭連が伊達なすずめ踊りを披露します。

夕方からの盆踊り本番に向けて、昨年好評をいただいた盆踊りの練習会を今年も開催。イベントホール松栄の6階にて合計50人近くの地元の方々にご参加いただき15時から約1時間熱心に踊りました。

また今年は、石巻不動町、亘理町浜吉田、山元町花釜の3地区から総勢70人の住民の方々をご招待しました。2012年から始まった本プロジェクトにおいて、過去に盆踊り支援を行った地域の地元住民の方々です。夕方会場に到着した皆さんは、移動の疲れも関係なく、すぐに盆踊りの練習を開始され、本番が始まる直前まで踊っていました。

日中は気温も30度を越えたこの日。17時30分となり、盆踊りが始ま

りました。県内各地域でなじみ深い「七夕おどり」「相馬盆唄」「宮城野盆唄」の3曲の他に、招聘した3つの地域の盆踊り曲「大漁唄い込み」「亘理音頭」「花釜音頭」が加わり、バラエティ豊かに次々と盆踊り曲がかかります。3地区からいらした方々も地元住民の方々と交流を深めながらいきいきと踊っていました。その表情は見ているこちらもつられて笑顔になれるほど輝いていました。はじめは遠巻きに盆踊りを眺めていた地元の方や、沿道で楽しそうに振付を覚えていた留学生の皆さんも、いつの間にか踊りに加わり、気が付くと輪は3重に。普段は車線も多く、広々とした印象のある宮城野通も、踊り手と見物客でいっぱいになり、仙台駅東口に響きわたる盆踊りの音色は、提灯の光に照らされた踊る人たちの姿と共に夏の夜を華やかに彩っていました。



宮城野通に小気味の良いお囃子の音色と歌い手の歌声が響き渡ります。櫓を囲み、踊る人の輪はだんだんと大きく、盛大なものになっていきました。

協賛社ブース出展内容

○協賛社ブース／もちべえ様／食品販売 ○マンダム様／デオドラントシートの配布 ○実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」手ぬぐい、うちわの配布

レンタル備品

○櫓／一式 ○太鼓／一式 ○テント／2張 ○照明／投光器2台、LEDライト8台 ○アイスボックス ○テーブル／10台 ○椅子／40脚 ○発電機／4台 ○音響／一式

出店内容

○わたあめ ○水ヨーヨーすくい ○スーパースクールすくい ○輪投げ



協賛社様の出展ブースは、暑い夏の日に嬉しいデオドラントシートを無料で配布し、会場を歩き交う来場者にとても喜ばれました。



盆踊り練習風景です。広いホールの中を、初めて参加する方もそうでない方もころせましと踊ります。



17時過ぎ、通りの中央に櫓が出現し、太鼓やスピーカーが設置され、盆踊りが始まる雰囲気がいじわじわと伝わってきます。



今年の盆踊りの看板デザインです。ポップに様々なイラストたちが盆踊りに誘っています。



盆踊りのスタート時刻に合わせて、3地区からいらした方々が控室から盆踊り会場へ移動。足取りも軽やかにやってきます。



さあ！始まりました、盆踊り。最初は皆さんと一緒に「七夕おどり」を踊ります。



開始時刻に合わせ、来場者の皆さんにうちわや手ぬぐいを無料でお配りしました。うちわを背中に差して、準備は万端です。



盆踊り曲のほとんどを、生のお囃子に合わせて踊りました！花釜音頭を歌う花釜の方と、歌声に調子を合わせる笛の皆さん。



おそろいの柄の浴衣におそろいのうちわ。絆の深さを感じる後ろ姿のツーショットです。



山元町花釜の花釜音頭は、2012年の本企画の支援により、保存会が生まれました。



少しずつ日も暮れて、盆踊りらしくなってきました。大太鼓の迫力ある音色が祭りの雰囲気を盛り上げます。



櫓の提灯の明かりがぼんやりと夜空に浮かび上がり、一層風情ある情景になります。



輪の中央にある櫓の上では振付の見本とともに会場を盛り上げる踊り手さんたちが汗をかきながらも楽しく踊っていました。



招聘された地域の歌い手さんと、仙台の歌い手さん、そしてすずめ祭連から駆けつけてくださったお囃子の方の合奏！



最後はやっぱりこの曲、「七夕おどり」で締めくくります。毎週練習を重ね、歌い手の皆さんが涼やかな歌声を披露してくれました。

7/31 (日) やりましょう盆踊り

(レポート／実行委員会・五十嵐)

多賀城市高橋地区

◆開催地／多賀城市高橋地区

◆開催時間／17時30分～20時

◆来場者数／約800名

多賀城市高橋4地区が団結した夏祭り。 子どもから大人まで祭り囃子の音に合わせ、心も身体も踊りだす。

毎年この地区の夏祭りは高橋4地区の町内会が合同で行ってきました。地元の商店会も協賛や出店などで協力し約800人程の来場者がある盛大な夏祭りを開催してきました。今年は、高橋地区のさらなる地域活性化を目指す為、盆踊りで輪を作ることによって地域コミュニティの支援をさせていただく事となり、開催が決定しました。

当日は、夏祭りが始まる前から大勢の住民の方々が会場に集まりました。手ぬぐいやうちわ、協賛社様のノベルティ配布を行い、暑い中集まった大勢の来場者に喜ばれました。そして、夏祭りは手作りの衣装に身を包んだ子どもたちの元気な「よさこい踊り」と共にスタート。続いて、仙台育英学園高等学校のチアリーディング部によるパワフルなダンスで会場内も盛り上がりを見せました。

やがて日が暮れ、出店も大勢の来場者で賑わいました。会場が老

若男女で盛り上がり中、盆踊りがスタート。多賀城音頭から始まった盆踊りは、太鼓の音とともに会場内に響き渡りました。この日の為に練習を重ねてきた踊り手ボランティアや地元の婦人部を筆頭に住民の方々が輪に加わり、次第に大きな輪へ。初めて盆踊りを踊る若い世代へ住民の方々が踊りを教える姿もみられ、会場内も和やかな雰囲気になりました。

4つの地区が力を合わせて作り上げた夏祭り。盆踊り直後にわずかに雨が落ちたにも関わらず、夏祭りラストは大抽選会もあり、最後まで大勢の来場者で盛り上がりました。会場には子どもからお年寄りまで集まり、久しぶりの再会を喜ぶ声や新たな出会いに賑わう声が印象的でした。

協賛社ブース出展内容

○協賛社ブース／河北新報販売部／新聞購読PR ○フェニーチェホーム様／チラシ、パンフレット、ポケットティッシュの配布 ○マンダム様／デオドラントシートの配布
○実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」手ぬぐい、うちわの配布

レンタル備品

○櫓／一式 ○太鼓／一式 ○テント／4張 ○照明／投光器2台、LEDライト8台 ○アイスボックス ○テーブル／10台 ○椅子／40脚 ○発電機／4台 ○音響／一式

出店内容

○水ヨーヨーすくい ○スーパースポーツすくい ○輪投げ



夏祭りが始まる前から恒例の抽選会に長蛇の列ができました。暑い中多くの人々が集まりました。



暑くてかき氷を食べる少年たちは、協賛社様の専用うちわを手元に夏祭りを楽しんでいました。



やりましょう盆踊り本部ブースでは協賛社様の専用うちわや専用手ぬぐい、ノベルティなどを配布しました。



子どもから大人まで、配布した手ぬぐいやうちわを持ち列に並ぶ姿が多々見られました。



多賀城西部販売所のブースにも大勢の来場者が訪れ、話を聞く様子が見られました。



マンダム様のデオドラントシートは、暑い気候の中、爽快感を心地で暑さを癒しました。



日も暮れ、祭り囃子の音に惹かれ、子どもから大人まで輪を作り盆踊りがスタートしました。盆踊りを知らない子どもたちに踊りを教える姿もみられ、会場は和やかな雰囲気に包まれました。



ぞくぞくと人々が集まり賑わう会場では、久しぶりの再会を喜ぶ姿もみられ、会場は和気あいあいとしていました。



子どもたちは、手作りの衣装で「よさこい踊り」を踊りました。元気いっぱい踊りに会場が盛り上がりました。



仙台育英学園高等学校チアリーディング部のパワフルなパフォーマンスに注目が集まりました。



子どもたちが太鼓を力いっぱい叩き、太鼓の音が会場内に響き渡りました。



浴衣を着た子どもたちが輪を作り踊りだすと、周りの人々も加わり次第に大きな輪になっていきました。



「多賀城音頭」を踊る踊り手ボランティアに住民の方々がアドバイスしながら一緒に踊っていました。



辺りも暗くなり提灯の明かりが心を癒します。太鼓の音が胸に響き人々が櫓の周りに集まりました。



東北弁を使った「東方落語」で笑い文化を発信している、今野家もう世さんのステージショーも行われました。



初めは恥ずかしがりながらも盆踊りに参加していた子どもたちも、最後は笑顔を見せながら踊っていました。

8/6(土) やりましょう七夕おどり・盆踊り

(レポート／実行委員会・高橋(拓))

◆開催地／仙台市つなぎ横丁(仙台七夕まつり おまつり広場)
◆開催時間／18時～20時30分

七夕祭り初日。伊達の街が色づく3日間の幕開けの日。 祭囃子の音色と共に踊るかけがえのない夏の夜。

伊達政宗公の時代より続く伝統のある仙台七夕まつり。毎年七夕飾りできらびやかな街になる三日間の幕開けとなる8月6日に「やりましょう盆踊り七夕踊り・盆踊り」もつなぎ横丁にて開催されました。

初日は天気にも恵まれ、更に土曜日ということでも大勢の人で賑わいました。会場では協賛社様である「マンダム」様のデオドラントシート体験コーナーと「三井不動産リアルティ東北」様にエコステーションを設けていただきました。

1曲目は「七夕おどり」 仙台七夕の定番曲からスタートです。宮城県民なら誰もが一度は聞いたことのあるこの曲。6月から河北新報社で行われている練習会に参加してくださっていた踊り手ボランティアの方の踊りが先陣を切り踊り出すと、見よう見まねで参加する子どもたちや昔を懐かしんで踊りに参加するおじいさん、おばあさんたちが輪

に加わりました。老若男女関係なく楽しめるのがこの曲の魅力です。二回目の「七夕おどり」では生のお囃子の演奏が重なり、より風情のある七夕おどりとなりました。

次の「相馬盆唄」「宮城野盆唄」は共に宮城県全域で歌われる曲です。両曲ともに軽快な合いの手が特徴です。軽快なこの曲に誘われ、沿道で見えていた方も次々と加わりました。踊りの輪が二重、三重の大きな輪へと成長し、迫力のある光景となりました。

迫力のある太鼓や風情のある笛の音。そして楽しそうに踊る踊り手の方々。当日の熱気と相まって最高潮の盛り上がりとなりました。お囃子の風情と人々の笑顔はまさに“日本の夏”を象徴するような情緒ある雰囲気となり会場を包みました。

協賛社ブース出展内容

○協賛社ブース／三井不動産リアルティ東北様／エコステーション ○マンダム様／デオドラントシート体験
○実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」手ぬぐい、うちわの配布

レンタル備品

○槽／一式 ○太鼓／一式 ○テント／4張 ○照明／投光器2台、LEDライト8台 ○アイスボックス ○テーブル／10台 ○椅子／40脚 ○発電機／4台 ○音響／一式



この日のために沢山の練習を重ねてくださった、お囃子の皆さん。暑い中頑張ってくださいました。



年代関係なく幅広く楽しめる盆踊り。日本の夏を象徴するようなとても素敵な光景です。



子どもたちもたくさん参加してくれました。簡単にマスターできるのが盆踊りの魅力の一つです。



つなぎ横丁前に設置された「やりましょう盆踊り七夕おどり・盆踊り」の目印の看板です。



こちらは「やりましょう盆踊り」本部テントです。うちわや手ぬぐいをお渡しさせていただきました。



この日は晴天でした。天気にも恵まれ3日間の幸先の良いスタート。まさにお祭り日和と呼べる日でした。



マンダム様のデオドラントシート体験コーナーは、浴衣の方もブースの中で使用できとても好評をいただきました。



三井不動産リアルティ東北様のエコステーションです。ゴミの無いきれいな会場を保つことが出来ました。



練習会に沢山参加していただいた踊り手ボランティアの皆さんです。踊る姿が凛としていてとても格好良かったです。



せんだい・杜の都親善大使の皆さんの踊りの様子です。練習会にも参加していただきました。



日が落ちてきました。暗い夜空に提灯の光と鮮やかな浴衣姿がとても映えます。



とても大きな太鼓が力強い音で会場を盛り上げてくれました。一気に祭りの雰囲気を作り出します。



盆踊りらしいこの光景。提灯の明かりがとてもきれいです。私達の心にどこかノスタルジーを感じさせます。



槽では歌い手の方が歌い、後ろでは踊り手の方が踊っています。提灯の明かりがより引き立たせます。



踊り手ボランティアの方々の一糸乱れぬ動きは、踊りを知らない方のお手本となって下さいました。



いよいよクライマックスにさしかかり、最初に比べてたくさんの方が盆踊りに参加していただきました。

8/7 やりましょう七夕おどり・盆踊り

(日) ●仙台七夕

(レポート／実行委員会・高橋(レ))

- ◆開催地／仙台市つなぎ横丁(仙台七夕まつり おまつり広場)
- ◆開催時間／18時～20時30分

煌びやかな浴衣が風に靡いて空間を彩る。
盆踊りとミックスされ、人々を魅了し世界に通じる光景を目の当たりにした。

今年も仙台七夕まつりに進出し、3年目を迎えたやりましょう七夕おどり・盆踊り。昨年に引き続き、ゲストとして宮城県亘理町出身の歌手である美波京子さんにお越しいただきました。艶やかで伸びやかな歌声は会場を華やきに包みこみ、来場者を魅了しました。続けてゲストの登場で会場がさらに盛り上がりました。空手家・格闘家で歌手としても活躍しているタレントの角田信朗さん。ご自身の持ち曲である「傾奇者恋歌」「漢花」「よっしゃあ漢唄」を歌っていただき、曲中会場の皆さんと共に強く拳を突き上げる場面は東北の力を再認識した瞬間でした。終盤には一緒に七夕おどりを踊っていただきました。そして、せんだい・杜の都親善大使の方々は実際に櫓の上で踊りの見本として登壇していただきました。

会場内に「三井不動産リアルティ東北」様と「マンダム」様の協賛社様の出展ブースを設けました。「三井不動産リアルティ東北」様は

エコステーションブースとしておまつり広場内の整備や清掃にご尽力いただき、「マンダム」様は盆踊りを踊った後の汗を拭いたり、暑い夏を乗り切るためのデオドラントシート体験ができるブースとしてのサービスが大好評でした。また、やりましょう盆踊り本部ブースでは、今回企画趣旨に賛同していただいた協賛社様の社名ロゴが入った手ぬぐいとうちわを配布いたしました。来場された方々が手ぬぐいを首から下げたり、うちわで扇いだりとひと夏の思い出の品となりました。連日の猛暑にも関わらず、多くの方にご来場いただきました。観光客から家族連れ、この時期ならではの楽しみである浴衣を身にまとい、おめかしした子どもたちの姿が見られました。また、つなぎ横丁では外国人の方が多く来場し参加していただきました。日本の伝統や歴史など東北の夏を存分に味わい尽くしました。

協賛社ブース出展内容

- 協賛社ブース／三井不動産リアルティ東北様／エコステーション ○マンダム様／デオドラントシート体験
- 実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」手ぬぐい、うちわの配布

レンタル備品

- 櫓／一式 ○太鼓／一式 ○テント／4張 ○照明／投光器2台、LEDライト8台 ○アイスボックス ○テーブル／10台 ○椅子／40脚 ○発電機／4台 ○音響／一式



本日も組み上がった櫓。「つなぎ横丁」は気持ちの良い風が吹き抜けます。



三井不動産リアルティ東北様のエコブースは沢山の方にご利用いただき、町のきれいを呼びかけていただきました。



マンダム様のデオドラントシートを実際に体験できるブースを展開していただき、さっぱりしたと喜ばれた声が聞こえます。



仙台七夕まつりに華やさを添えたせんだい・杜の都親善大使の皆さま。盆踊りの楽しさを伝えていただきました。



ゲストの角田信朗さん。七夕おどりをすぐにマスターされ、「踊り足りない!」とアンコールされるほどでした。



難しい歌詞も一生懸命ふりがなを振り、歌詞を完璧に歌いあげた小さな歌い手たちが会場を沸かせました。



夕暮れと同時に始まった七夕おどり・盆踊り。大勢の参加者と観覧者で大いに盛り上がりを見せました。



初々しい歌い手ボランティアとお囃子の皆さんでひとつになります。踊れる人も飛び入り参加の方々も笑顔に溢れています。



せんだい・杜の都親善大使の3人に櫓に登壇していただき、踊りのお手本として踊っていただきました。



普段見かけたり聞いたりしない和太鼓や横笛に興味深々な子どもたち。近くで見るとまた臨場感を味わえます。



それぞれの願いや思いを込めて解き放ちます。盆踊りも佳境に入っていきます。



お揃いの浴衣で身を包み、盆踊りの楽しさを皆で共有しています。「まだまだ踊りたい!」という声も聞こえてきました。



戦後から71年の歴史を持つ「仙台七夕まつり」。また一年と歴史を刻みました。



輪に加わる外国の方々が多く見受けられました。みるみるうちに上達し、嬉しさが込み上げます。



生のお囃子でより一層会場全体が活気付きます。誘われるかのように「つなぎ横丁」に訪れる人々が増えてきました。



「七夕おどり」は簡単な振り付けで構成されているので、誰でもすぐに踊ることができます。

8/8 (月) やりましょう七夕おどり・盆踊り

(レポート／実行委員会・高橋(レ))

◆開催地／仙台市つなぎ横丁(仙台七夕まつり おまつり広場)
◆開催時間／18時～20時30分

一年ぶりの再会に感謝し、それぞれの思いの丈を「つなぎ横丁」に放ち、そして一年後の再会を七夕の夜空に誓い合った。

東北の三大祭りのひとつである「仙台七夕まつり」。3日間で過去最大の約230万人ものの来場者数を記録しました。日本ないし海外でも有名なお祭りとして認知されて、愛されていることが分かります。昨年に引き続き、「仙台七夕まつり」に進出した「やりましょう盆踊り」。最終日の3日目は、大粒の雨に見舞われ開催が危ぶまれましたが、盆踊り開始前には止み、夕方は真っ赤な夕日が顔をだしました。最終日に相応しい爽やかな空間に包まれ、風通しの良いつなぎ横丁に皆想いを寄せていました。

スタートは2日目と同様に、美波京子さんの生歌から。仙台市民ではお馴染みの「七夕おどり」は、一度は耳にしたことのあるサウンドでどこか懐かしい気持ちになります。誘われるかのように輪に加わる方が増えていき、何重にもなる輪からパワーが感じ取れました。19時

から、戦後に創作された「相馬盆唄」と福島地域から宮城地域でよく耳にする「宮城野盆唄」へと続き、お囃子や踊り手と歌手の掛け合いで熱が増していきました。その間、オーディエンスは手拍子で応え、つなぎ横丁は一つになったのです。「七夕おどり」と「相馬盆唄」、「宮城野盆唄」を踊りましたが、今回のために練習を重ねてきた踊り手ボランティアの方々が輪の基礎を作り、大いに盛り上げてくれました。最後にはみなさんで記念撮影をし、七夕の夏を締めくくりました。

最終日月曜日の平日にも関わらず、夏の暑さにも負けず、たくさんの来場者で大盛況に終わった「やりましょう盆踊り」。プロジェクトが始動してから5年目を迎え、結ばれた絆がより一層心に強く刻み込まれました。

協賛社ブース出展内容

○協賛社ブース／三井不動産リアルティ東北様／エコステーション ○マンダム様／デオドラントシート体験
○実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」手ぬぐい、うちわの配布

レンタル備品

○槽／一式 ○太鼓／一式 ○テント／4張 ○照明／投光器2台、LEDライト8台 ○アイスボックス ○テーブル／10台 ○椅子／40脚 ○発電機／4台 ○音響／一式



午前中の大雨が一転、止んで開始と同時にから大きな輪が広がりました。



真っ赤に染まった夕暮れ時の盆踊りは格別です。開始と同時に多くの人で賑わいました。



2日目に引き続き、美波京子さんに「七夕おどり」を歌っていただきました。



今年度のやりましょう盆踊りの共通うちわは5種類あり、色はトラディショナルなカラーで展開しました。



ビル間にたたずむ「やりましょう盆踊り」の槽を囲んでたくさんの方々にご参加いただきました。



普段はあまり履かない下駄を上手に履きこなし、軽快なステップで踊りました。



七夕おどり・盆踊りの3日間を盛り上げた踊り手・歌手ボランティアとお囃子の皆さまで記念撮影。「来年もまた会おう」と声を掛け合う姿が見られました。



さらなる盛り上げをみせるつなぎ横丁は、きれいな行列の大きな輪が広がりました。



平日の最終日にも関わらず、終了の20時30分まで多くの来場者でつなぎ横丁を埋め尽くしました。



2ヶ月にわたって練習を重ねたボランティアの皆さま。しとやかな踊りで観客を魅了します。



盆踊りが佳境に入り、お囃子の皆さまの勢いが伝わります。歌い手の方々も会場を盛り上げます。



子どもが盆踊りを熱心に学習中。この時期しか味わえない風物詩をまるごと学び、マスターしたようです。



和太鼓と横笛の演奏で夏らしい雰囲気になります。老若男女問わず楽しめるのが魅力です。



盆踊りの基本は手先をしっかりと伸ばすのがポイントです。簡単な振り付けですぐに覚えられます。



浴衣の方やそうでない方も、輪に加わる方がどんどん増えていきます。世代を超えた大きな輪をつくりました。



「仙台七夕まつり」のグランドフィナーレに参加し、今年も七夕の夏を締めくくりました。

8/13 (土) やりましょう盆踊り

(レポート／実行委員会・金子)

in 石巻市新蛇田

◆開催地／石巻市市営新立野第一復興住宅H棟向かい公園(新蛇田第一号公園)
◆開催時間／18時30分～20時30分 ◆来場者数／約300名

スタートしたばかりの新蛇田地区で、初開催の盆踊り大会。 広々とした公園に響く盆踊り曲、弾むような地域の人々の声。。

東日本大震災で大きな被害を受けた、石巻市。市内の被災者を中心に、復興住宅への入居、戸建ての新築住宅の建設が進んできました。少しずつ新しい生活が始まったこの地域では、町内会の発足や地域住民の交流もこれからというところ。そんな折、相談役として住民の方々と積極的に関わってきた団体の方から問い合わせを受けました。住民の交流が深まるきっかけになるようなイベントを開催したいという地域住民の方々の想いを受け、今回、実施が決まりました。

当日は快晴。会場を見渡すと、支援でお貸する櫓の他にもう一つ櫓が立ち、その周りには所狭しと屋台が並んでいました。迫力のある光景に、主催者の祭りにかける気持ち伝わってきます。

15時から昼の部がスタートすると、様々な出演者が会場を盛り上げます。夕方、少しずつ日が沈んで櫓の提灯に明かりが灯されると、浴

衣を着た住民の方々が続々と公園に集まってきてくれました。

18時30分、いよいよ盆踊り開始。あっという間に踊りの輪ができて、さらにその輪はどんどん大きくなっていきました。港町では馴染みの深い「大漁唄い込み」やノリのよい「炭坑節」、様々な地域で踊られている「相馬盆唄」など、曲が変わっても見よう見まねで踊り続ける地元の方々と、会場はすぐにいっぱい。その中には、集会所で何度も練習会を行い、踊りを覚えて参加してくださった皆さんもいらつやいました。

休憩とゲストの出演を挟んで、最後はやっぱり盆踊り。前半にもまして多くの方に参加いただきました。前を踊る人が後ろの人に振付を教えたり、小さな子どもたちの調子に合わせて年長の子どもが隣で一緒に踊る。笑顔の生まれるシーンを多く見ることができ、改めて盆踊りの輪がつくる人々の、心の輪の温かさを実感しました。

協賛社ブース出展内容

○協賛社ブース／一条工務店様／キャラクター風船の配布 ○河北新報石巻専売所小笠原新聞店／ここだけ新聞ほか ○マンダム様／デオドラントシートの配布
○フェニーチェホーム様／チラシ、パンフレット、ポケットティッシュの配布 ○実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」手ぬぐい、うちわの配布

レンタル備品

○櫓／一式 ○太鼓／一式 ○テント／4張 ○照明／投光器2台、LEDライト8台 ○アイスボックス ○テーブル／10台 ○椅子／40脚 ○発電機／4台 ○音響／一式

出店内容

○ポップコーン ○射的 ○焼きそば ○スーパーボールすくい ○輪投げ



会場に次々と設営される、協賛社様の出展テント。暑い中着々と出展開始の準備を進めています。



会場には2つの櫓が仲良く並んでいます。ひとつは支援として、もう一つは、近隣住民の方の協力を得て用意できたものです。



協賛社の一條工務店様の出展テント。この後子どもたちに大人気だったキャラクター風船が飾られます。



河北新報石巻専売所小笠原新聞店の出展ブース。かほびョンと一緒に写真を撮って、記念にできるブースです。



会場には早くから沢山の方が来場してくださいました。スーパーボールや輪投げなど子ども向けのテントも準備を進めます。



会場には宮城テレビの「だよんくん」も登場。法被を着て、お祭り気分子どもたちと触れ合います。



広い会場で、幾重にも重なる踊りの輪。提灯や投光器の明かりに照らされた人々の影も、まるで一緒に踊っているかのようです。



こちらは東日本放送のぐりり。「ぐりり音頭」というオリジナルの盆踊り曲があり、気合もばっちりです。



盆踊りが始まる前には、子どもたちが太鼓を叩く体験をしていました。びっくりしたり、喜んだり。様々な表情が見られました。



いよいよ盆踊り大会の開始です。開会の挨拶は実行委員長の増田さん。この祭りにかける想いをお話していただきました。



盆踊りの前には、迫力のある太鼓の演奏。演奏者は2人なのに、会場に響く音には迫力が圧倒されます。



老若男女、輪に入って踊っても、座って提灯の明かりの下、流れる人たちを眺めても…。盆踊りの楽しみ方はさまざまです。



盆踊りの始まる時間を目撃して、通りを歩いて会場に入ってこられる女性の皆さんの多いこと！



子どもさんは、踊りを覚えるのがとっても早い！あっという間に全部覚えて、輪の中心に近いところで元気に踊ってくれました。



記録係や取材班の方も、カメラを上げて踊りに加わります。見ているとつい踊りたくなってしまうのも盆踊りの魅力のひとつ。



この地域ならではの振付で相馬盆唄を踊る人々。地元の方々と練習会も行っており、張り切って踊りの振付を復習しながら進みます。

8/14(日) やりましょう盆踊り

(レポート／実行委員会・金子)

in 岩沼市玉浦西

◆開催地／岩沼市玉浦西2丁目「まごころ公園」
◆開催時間／17時～20時 ◆来場者数／約350名

新天地、できたばかりの町内会で、初めて行う盆踊り。 大人も子どもも慣れ親しんだ岩沼音頭の音色に合わせ、輪をつくる。

岩沼市玉浦西地区は震災後新たに造成され、昨年7月に町びらきが行われた地域です。昨年も盆踊り支援のお話が持ち上がったそうですが、実施には至りませんでした。町びらきから約1年たった今年、満を持しての開催となりました。とはいえ、玉浦西地区で行う町内会主催の夏祭りは今回が初めて。まちづくり協議会の顔役の皆さんは集会所で協議を重ね、当日まで準備を進めてきました。

朝からとても暑くなったこの日、会場では早くから出店の準備や手作りの神輿の仕上げ、音響設備の打ち合わせなど、町内の方が繰出で、張り切ってそれぞれの役割に取り組まれている姿がありました。その様子を見て本番の盆踊りの大成功を半ば確信してしまえるほど、会場内には活気と熱気に満ちていました。

午後15時から手作りの神輿を担いで子ども神輿や人生の先輩方の

カラオケ大会を経て、盆踊りが始まります。この地域で昔から踊られている「岩沼音頭」を中心に、「相馬盆唄」や「炭坑節」を踊ります。「岩沼音頭」の独特の振付は、見る側も踊る側もとても楽しく、櫓の周りにはまたたく間に三重の輪ができ、会場のボルテージはあつという間に最高潮に達していました。地元住民の方々の味のある出し物を織り交ぜながら盆踊りは続き、暗くなってもその熱気と盛り上がりはとどまることをしりません。祭りを心から楽しんで踊る玉浦西地区の人々をみて、気が付けば、私も自然と踊りの輪に加わっていました。

開催に至るまでの苦労があったからこそ息づいた地元の人たちの温かな交流と深い絆は、どんな地域コミュニティにおいても大切だと痛感しました。

協賛社ブース出展内容

○協賛社ブース／河北新報岩沼販売部／かほびん等で購読のPR ○フェニーチェホーム様／チラシ、パンフレット、ポケットティッシュの配布
○マダム様／デオドラントシートの配布 ○実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」手ぬぐい、うちわの配布

レンタル備品

○櫓／一式 ○太鼓／一式 ○テント／4張 ○照明／投光器2台、LEDライト8台 ○アイスボックス ○テーブル／10台 ○椅子／40脚 ○発電機／4台 ○音響／一式

出店内容

○水ヨーヨーすくい ○輪投げ ○かき氷 ○焼きそば ○焼き鳥



町内の方が手作りで完成させた、子ども神輿。本番は沢山の子どもたちが元気よくわっしょいわっしょいと練り歩きました。



一日の中で最も暑い時間帯。櫓とともに、見物客の為に設けられた敷席や、本部テントはすでに準備は万端の様です。



小林実行委員長の開会のあいさつ。鉢巻と手ぬぐいを巻いて、実行委員おそろいの法被を着て、お話していただきました。



子どもたちのヨサコイソーランは、威勢のいい音楽と共に、低学年から高学年まで息の合った演技を披露してくれました。



盆踊り1回目。振付がわからなくても、まずは踊りの輪に入ってみることが祭りを楽しむ第一歩です。



振付の少し複雑な「岩沼音頭」は、様々な動きがあり、初めて参加する方もそうでない方も集中して踊っています。



法被に浴衣に私服。年齢も性別も、盆踊りを踊る想いも十人十色。櫓を囲んで、みんなで一緒に岩沼音頭を踊ります。



こちらは河北新報岩沼販売部からの出展。新聞購読のPRに、おそろいの青いボロシャツを着て来場者にアピールします。



協賛社から地元の方々へご提供いただいた手ぬぐいを巻いてうちわに手に踊る、地元の皆さん。



櫓の上では流れる盆踊り曲に合わせて、太鼓の生の音色が花を添えます。盆踊りの輪も、一向に途切れません。



盆踊り支援のきっかけを作ってくださった笠田さんと小林実行委員長。たぐいまれい背中に、息もぴったりのお二人です。



会場には、河北新報のマスコットキャラクターかほビョンも遊びに来てくれました！この後子どもたちから大人気に。



アフリカ太鼓を演奏する皆さん。民族毎に異なるリズムをもつ毎に演奏は迫力満点で、アフリカの大地を連想させてくれます。



ようやく暗くなってきて、盆踊りも佳境に入ります。踊っている人々は疲れを見せずとも元気に踊り続けていました。



最後の「岩沼音頭」。すっかり振付も覚えて、輪の中で踊るごの方も自信たっぷりに見えます。



盆踊り終了後の大抽選会は、櫓の上で番号が読み上げられるたび、歓声のため息がおきていました。

8/20(土) やりましょう盆踊り

(レポート／実行委員会・金子)

in 青葉区作並

◆開催地／作並小学校

◆開催時間／17時～20時

◆来場者数／約150名

今年最後の開催地。雨天により、体育館で開催。 アットホームな雰囲気と三重の輪で夏の集大成。

仙台市青葉区作並地区では、地元住民の方々が毎年協力して盆踊りを行ってきました。しかし少子高齢化とともに、地区内の子どもの数も減り、開催資金の厳しさを含めた様々な壁にぶつかっていました。そんな中、地域おこしの一環としての支援を望んでいただき、今回、お手伝いすることになりました。

作並地区は空模様安定せず、これまでの夏祭りも雨が降ることが多かったようです。今年も例外ではなく、一週間前まで晴れると予想されていた気象予報は、2、3日前になって急に不安定になりました。雨が降っても何とか開催したいと地元住民の方々から強い要望をいただき、当日朝雨が降りしき中、体育館での開催に切り替えるという連絡をいただきました。早いご決断をいただいた町内会長様によると、雲の流れる道筋と方向を見て決められたそうです。子ども向けの縁日品を

はじめ、PTAのご父兄を中心に出店の準備も滞りなく進んでいき、そのときばきとした進行には、驚かされました。年長者の知恵と、若い世代のパワーが合わさって、地域コミュニティのひとつの理想を見たような気がしました。

盆踊り本番は、小気味のいい「作並小唄」や「七夕おどり」など、積極的に踊りに参加していただきました。それぞれが思うままに楽しく踊っていて終始和やかな雰囲気でした。合間の時間には、あちこちで床に座って休憩する人たちがいて、体育館開催の利点だと感じました。盆踊りの他にも太鼓の演奏やラムネの早飲みなど、同じ地域に住む人々が一体となって祭りを堪能しているようでした。とてもあたたかな人々の作り上げる盆踊りを支援し今年最後の実施を締めくくれたことは、来年に向けてとても貴重な経験となりました。

協賛社ブース出展内容

- 協賛社ブース／河北新報作並販売所渡辺新聞店／水ヨーヨー釣り ○マンダム様／デオドラントシートの配布
- 実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」手ぬぐい、うちわの配布

レンタル備品

- 槽／一式 ○太鼓／一式 ○テント／4張 ○照明／投光器2台、LEDライト8台 ○アイスボックス ○テーブル／10台 ○椅子／40脚 ○発電機／4台 ○音響／一式

出店内容

- 射的 ○水ヨーヨーすくい ○スーパースボールすくい ○輪投げ ○ポップコーン



体育館の中に設置された槽と提灯。野外での盆踊りを見慣れている私達には、少し不思議な光景です。



今回も協賛社様からお預かりしたデオドラントシートを会場で配布させていただきました。



河北新報作並販売所渡辺新聞店のブースでは、水ヨーヨー釣りを実施していただきました。



子どもたちのお神輿。槽の周りを、力を合わせ一生懸命一周していました。



体育館の中は提灯と建物の照明で明るく、いつにもまして色とりどりの浴衣が映えます。



基平を着た男の子たちも、恥ずかしがらずに盆踊りに参加してくれていました。



体育館での開催となりましたが、足元を気にせず、小さい子どもから大人の方まで楽しく踊れました。雨にも負けず、沢山の方にご参加いただきました。



輪はあっという間に2重に。作並小唄の振付を輪の内側にいるゆりの会の皆さんの真似をしながら覚えます。



射的を楽しむ女の子たち。小さいのに当てるのは難しいけれど何度も挑戦します。



こちらは輪投げ。狙った景品めがけてえいっ！と勢よく輪っかを放ります。



「作並小唄」の振付を覚え、楽しく踊る女性たち。浴衣姿がとても粋です。



スーパースボールすくいに熱中する子どもたち。上手な子が年下の子にコツを教えていました。



ポップコーンは祭りの開始前から何度も作り方を練習し、おいしく作って提供されていました。



作並地区を中心に結成されている、「西部広陵太鼓」の皆さんの演奏。迫力のあるパフォーマンスに圧倒されました。



有志の皆さんにステージに上がっていただき、上でラムネの早飲み競争を実施し、大いに盛り上がりました。



盆踊り曲に合わせて太鼓を叩く二人。盆踊りの輪が進むのを槽の上から眺めつつ、熱心に叩いていただきました。

踊り手・歌い手・お囃子育成練習会

盆踊り会場を盛り上げるために、一昨年より開催している「盆踊り練習会」。昨年に引き続き参加頂いた方や、広告を見て今年から参加頂いた方まで、幅広い年代の方にお越しいただきました。本番では練習の成果を存分に発揮。初めて盆踊りに触れる観光客や、お子さんに踊りを指導する場面も見られ、宮城の盆踊りを広める人材としてご活躍頂きました。踊りのリーダー不在に悩む仙台市内町内会の要請で、有志が会場に出向いたりもしました。

「踊り」の練習 (全7回)

◆開催時間／毎週火曜19:00～21:00

- ①6月14日(火)
- ②6月21日(火) 指導／星とよ子さん(七夕おどり、宮城野盆唄、相馬盆唄)
- ③6月28日(火)
- ④7月 5日(火)
- ⑤7月19日(火)
- ⑥7月26日(火)
- ⑦8月 2日(火)

練習曲目

七夕おどり、宮城野盆唄、相馬盆唄、大漁踊り、花笠音頭

「民謡」の練習 (全8回)

◆開催時間／水曜19:00～21:00

- ①6月15日(水) 指導／弓場クニさん(唄)、吉田初江さん(お囃子)
- ②6月22日(水) 同
- ③6月29日(水) 同
- ④7月 6日(水) 同
- ⑤7月13日(水) 同
- ⑥7月20日(水) 同
- ⑦7月27日(水) 同
- ⑧8月 3日(水) 同

練習曲目

七夕おどり、宮城野盆唄、相馬盆唄、大漁唄い込み

「着付け」指導

◆開催時間／火曜

7月12日(火) 19:00～21:00 指導／境野よし子さん

- ◆開催期間／6月14日(火)～8月3日(水)
- ◆開催場所／河北新報社別館5階ホール
- ◆参加費／無料



やりましょう盆踊り 広告展開

開催告知および盆踊り練習会告知広告

6月7日(火)、河北新報朝刊・全5段モノクロ広告スペースで本年度の「やりましょう盆踊り」および「盆踊り練習会」の開催告知広告を掲載しました。



▲河北新報朝刊6月7日(火)掲載 全5段モノクロ広告

開催告知広告

7月27日(水)、河北新報朝刊全15段カラー広告スペースで本年度の開催告知広告を掲載しました。



河北新報朝刊▶
7月27日(水)掲載
全15段カラー広告

開催報告広告

9月9日(金)、河北新報朝刊全15段カラー広告スペースで本年度の開催報告広告を掲載しました。「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」、「やりましょう盆踊り」の様子を写真で紹介。



河北新報朝刊▶
9月9日(金)掲載
全15段カラー広告

特集記事

大仙台圏に44万部発行するフリーペーパー「河北ウィークリーせんだい」、7月28日号の中面特集として「盆踊りの「輪」から広がる「和」。やりましょう盆踊り」を発行。



▲河北ウィークリーせんだい7月28日号中面特集「盆踊りの「輪」から広がる「和」。やりましょう盆踊り」

やりましょう盆踊り 各種ツール

オリジナル手ぬぐい

仙台の伊達文化の染め技法を今に引き継ぐ「永勘染工場」による、ご協賛各社様のロゴを染めたオリジナル手ぬぐいを1,000枚製作。頭や首に巻いたりと多くのご来場の方に使用されました。



特別協賛手ぬぐい



▲JA共済様



▲大塚商会様



▲三井不動産リアルティ東北様



▲みらい様

オリジナルうちわ

今年は祭りの追加アイテムとしてご協賛各社様のロゴをカラーで配した「やりましょう盆踊り」オリジナルうちわを製作。各会場に約200枚配布し、盆踊りにご来場いただいた方に人気を博しました。



▲JA共済様



▲大塚商会様



三井不動産
リアルティ東北様



みらい様

開催告知ポスター

「やりましょう盆踊り」開催告知ポスターを多賀城市高橋・石巻市新蛇田・岩沼市玉浦西・青葉区作並の4種類を作成し、自治会に提供。開催地の町内の各所に展示していただきました。また、仙台駅東口で開催された夏まつり仙台すずめ踊りでも本企画内容がポスターとして掲載されました。



会場設置看板

【設置式機用看板】正面／裏／側面(特別協賛面)／側面(一般協賛面)



全会場の櫓にご協賛各社様のロゴをレイアウトした看板を掲出。ご来場いただいた方の目に留まる場所に設置したことで、協賛各社様のPRにも繋がりました。



【可動式機用看板】側面(特別協賛面)／側面(一般協賛面)



やりましょう盆踊り 記事 & Weekly



▲河北新報朝刊／7月26日掲載記事



▲河北新報朝刊／8月7日掲載記事



▲河北新報朝刊／8月14日掲載記事



▲河北新報朝刊／8月16日掲載記事



▲河北ウイークリーせんだい／7月21日発行号

Facebookによるタイムリーな情報発信

24時間365日、いつでもタイムリーに情報発信できるFacebookの利点を活かし「やりましょう盆踊り実行委員会公式Facebookページ」を運営。実行委員会による、盆踊り練習会の風景から開催告知を行い、また、開催期間中には会場からリアルタイムで画像を投稿。フォロワーとなる「いいね!」の獲得は平成28年9月現在で278件。1件の投稿につき平均300人以上の閲覧者を獲得し、最大で1,000人近い閲覧者を獲得した投稿もありました。



◎やりましょう盆踊り実行委員会公式Facebookページ
<https://www.facebook.com/yarimashowbonodori>

公式ブログで報告と詳細情報を発信

河北新報社が運営する「河北新報オンラインコミュニティ」で、自治会の方々と打ち合わせの様子や開催した盆踊りの報告など詳細情報を発信しました。

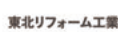
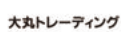
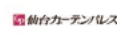
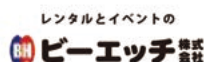


◎やりましょう盆踊り公式ブログ
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/bon-odori>

特別協賛



一般協賛



(順不同)

